



1/右から藤村さん、大井さん、徳永さん、そして元書店員として参加しているキャサリンさん。和気あいあいとした雰囲気の中で普段から最近読んだ本を勧めあったりすることも。ちなみに徳永さんの好きなジャンルはエッセイ。藤村さんとキャサリンさんは歴史ものが好きなのだそう！ 2/書店員が選んだ激オシ文庫フェアコーナー（2020年丸善）。書店員による推薦コメントの書かれた帯が巻かれています。今年のテーマは「もっと怒りを！」。ぜひご注目を 3/作家の都築響一さんを招いた講演会。毎年実行委員のメンバーが熱い思いをしたため、トークショーなどの依頼をしているとか 4/オンラインで開催されている「書店員ナイトin福岡」の様子。激オシ文庫フェアに参加した書店員とともに、注目の本について語り合います。今年は10/29（金）、20時半から配信 5/2008年に作成された特製ブックカバーと葉



けやき通りのきさき古本市。約800メートルのけやき通りに100組ほど集まり、自分だけの「一日古本屋」をオープンさせる

巻頭特集

本とであう、人とつながる

ブックオカ 福岡を本の街に'21

2006年からスタートし、今年で16回を迎える本の祭典ブックオカ。青空古本市をはじめとした盛りだくさんのイベントを紹介します。



本好きが集い、共通の趣味からスタート

「ブックオカ」をご存じだろうか。毎年秋、中央区を中心に行われるブックイベントだ。ブックオカは2006年、中央区赤坂のけやき通りに書店を構えるブックスキューブリックの店主・大井実さんと、地元出版、忘羊社の藤村興晴さんを主体としたメンバーが、「福岡を本の街に」というスローガンを掲げスタートした。

ブックオカの中心イベントは「けやき通りのきさき古本市」。企画を立ち上げる際に東京・不忍で開催されていた「箱古本市」を参考にした。けやき通りに並ぶお店の軒先を借り、一般公募で集まった参加者が皆、思い思いの蔵書を出品する。ジャンルも値付けも人それぞれで、参加理由も「お小遣いを稼ぎたい」「家にたまりすぎた本を断捨離するため」「グループで出店するのが秋の楽しみになっていく」など様々。さらに、書店を横断したフテアや作家を招いた講演会に読書会、オンラインでの動画配信など、内容も盛りだくさん。今年で16回目となる人気イベントに成長した。

実行委員会の藤村さんは「初めは、出版社や書店員など、本に関わる人間が集まって、文化祭みたいなお祭りがしたいねと話していたんです」と語る。実はブックオカ、スポンサーがついておらず、運

ち望んでくれているイベントを中止にはできないなと感じました」と徳永さん。また、毎年一般からボランティアを募っており、実行委員会メンバーは彼らとの交流も楽しみにしているそうだ。「改めて一般の方の目線や本に対する考えを聞けて、私たちがフレッシュな気持ちになります」と、ここでもまた新たなつながりが生まれている。

「絶対に必要なわけではないけれど、なくてはならないもの」

古本市では約100組の出店者が集い、1日で6000冊以上の本が新たな人の手に渡る。お客さんの中には「30年探していた本を見つけることができる

営メンバーが本業の傍ら集まり、ボランティアで活動しているのだ。だからこそ、当初は大規模なイベントというより、自分たちが楽しめるイベントを企画していたのだと言う。しかし、迎えた第1回。普段はけやき通りを通り過ぎるだけの人々が軒先に並ぶ本を見て、足を止めてくれた。「何のイベントだろうかと興味を持ってきて、予想をはるかに超える人が集まりました」と大井さんは当時を振り返る。「年限りのイベントだと思っていたが、「来年もやろう」というメンバーの声で継続が決まった。

本を通じて、人とのつながりを大切にしたい

古本市では出店者とお客さんのコ



大井実さん

ブックスキューブリック けやき通り店
☎092-711-1180
福岡市中央区赤坂2丁目1-12ネオグランデ赤坂1F
11:00～19:00/月曜定休

「都心部は人とのつながりが希薄になってしまいがちだからこそ、人と人がつながる場を作ったんです」と大井さん。だからこそ、大型の書店ではなくコンパクトな書店を目指し、本の水先案内人としてお客さんとの距離を縮められるように努めてきた。そんなブックスキューブリックも地元で愛され今年で21年目となる。今年3月にはけやき通り店が「福岡県野外広告景観賞」を受賞した。

た！という喜びの声も。食事や睡眠のように必ずしも生きていくのに無くてはならないものではないが、本を読むことが心の支えになったり、新たな世界を見つけるきっかけになるかもしれない、とブックオカのメンバーは話す。

昨年につづき今年も、感染症予防のため会場を舞鶴公園（福岡城へと移し）のきなし古本市」として開催する予定だ。さらに、福岡の書店員がチョイスした「激オシ文庫フェア」やYouTubeでの生放送配信など様々な企画が目白押し！
昨今、新聞や書籍などの利用が減っている中、いま一度本を手にとり、新たな出会いを見つけてみてはいかがだろうか。

「のきさき古本市」参加者の声を聞いてみました！

2011年から毎年参加しているkokuriさん。お茶好きだったため、手揉み茶の製造工程から名付けたそう。今年は友人と共に「ひとさき読書会」として参加予定です。



Q.主にどんな本をチョイスして出品している？

A 一年間に読んだ本を古本市に出しています。引越しのための断捨離が出店のきっかけです。

Q.心に残ったエピソードは？

A のきさき古本市で仲良くなった方のご自宅にお呼ばれて、おいしいごはんとお酒をご馳走になりました！

Q.のきさき古本市の魅力は？

A お客さん、スタッフの方々、出店者の皆さんと本好きな方々が集まるのでとても居心地のいい雰囲気なところ。お客さんとのやりとりも楽しいです。自分が買っていくのも良いですが、出るともっと楽しいですよ。



ブックオカ 福岡を本の街に
10月25日（月）～11月20日（土）
☎http://bookuoka.com/
☎092-406-2036
（事務局・忘羊社/平日のみ）
☎info@bookuoka.com

のきなし古本市in福岡城
11月3日（水・祝）11時～15時半
※雨天時は6日（土）に順延
福岡城址「梅園」
（中央区城内1-4 舞鶴公園内）